

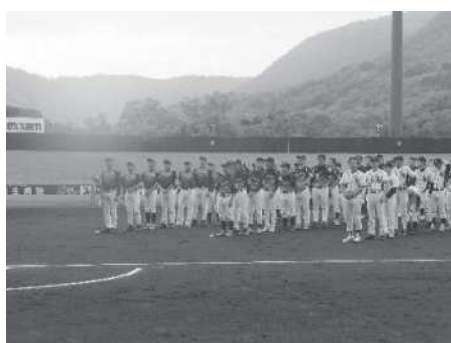
野球部だより

三師会野球大会 試合結果報告

…野球部監督 権 成基…

令和元年の三師会野球大会は10月22日に快晴の下、レクザムスタジアムにて開催されました。薬剤師会は今年の三師会主催ということもあり、新戦力を加えて優勝を目指していることはもちろんですが、歯科医師会も毎年のように二位に甘んじているため、「今年こそは」の気持ちであることは言うまでもありません。迎え撃つ医師会野球部は7年越しの5連覇（7年前と去年は雨で中止）を目標に、春から練習を積みかさねて不安なくこの日を迎えることができました。

くじ引きの結果、三つ巴の決戦の第一試合を戦うことになったのは歯科医師会と薬剤師会でした。両チームとも初戦をものにして、優勝に王手をかけようと白熱した戦いになることが予想されました。このカードは毎年のように薬剤師会がリードし歯科医師会が逆転勝ちするのですが、今年は薬剤師会がリードしては歯科医師会が追いつくことを繰り返しましたが何とか逃げ切った薬剤師会が7-3で勝利を収めました。



その結果、第二試合は医師会对歯科医師会ということとなりました。

医師会の先攻となったこの試合は、新人とベテランがそれぞれの持ち味を発揮して完勝することが期待されました。



VS 歯科医師会

一回表

一番サード太田は四球で出塁したが、二番ファースト渡辺、三番ショート妹尾（父）が連続三振。四番ライト権ショートゴロとなった。

一回裏

医師会先発の赤井は一番をファーストフライに仕留めた。しかし二番にセンターオーバーヒットを打たれると三番の強打者を警戒し過ぎてか、二回のパスボールで一死三塁となりいきなりピンチとなった。しかし、三番、四番から130km/h 弱のストレートで三振を奪いしのいだ。

二回表

この回先頭の五番赤井はいきなりレフトオーバーの二塁打を打ち出塁したが、六番レフト佐野、七番 DH 武田 Jr（セカンド武田父の指名打者）、八番センター河井が三者連続三振に打ち取られた。

二回裏

この回先頭の五番にいきなりライト前ヒットを打たれると六番を四球で歩かせ無死一二塁とした。七番を三振とし、八番は簡単なサードゴロに仕留めたが、三塁太田がエラーして満塁となった。九番を三振としたが一番にセンター前ヒットを打たれ2点を先制された。なおも二死一三塁、ここでピッチャー赤井のワイルドピッチで一点を追加されたが二番はショートフライとした。



三回表

九番三浦がショートゴロ内野安打で出塁するとすぐさま二盗三盗を決めた。一番太田も四球で出塁すると二盗して二三塁とした。二番渡辺の強烈なライナーは相手投手のグラブをはじき内野を転がった。三塁ランナーの三浦は思い切ってホームへ走り1点を返し、一三塁となった。ここで渡辺がリレードスチール、一二塁間に挟まれたところで太田がホームインして2点を取り渡辺も二塁へ進んだ。三番妹尾（父）はセカンドゴロとなり一死三塁。四番権死球、五番赤井のボテボテのあたりは三遊間の深いところ転がりショート内野安打となり渡辺が帰り3点目が入った。七番佐野四球で満塁となったところで、八番武田 Jr が左中間三塁打を放ち計6点を取り逆転した。続く河井もレフト前ヒットを打ちこの回7点を取った。

三回裏

先頭の三番と四番に四球を与えるとダブルスチールで二三塁とされ、五番にレフト犠牲フライを打たれ一点を返された。六番に再び四球を与えて一死二三塁とされた。七番ファーストゴロで二三塁とされ、八番にセンター前にはじかれて今回3点をとられ1点差まで追いつかれたが、九番は三振とした。

四回表

先頭の三番妹尾（父）が四球で歩くと、四番権がライト前ヒットで二三塁とした。五番赤井はここで、左中間二塁打を打ち2点を突き放した。六番佐野はサードゴロに倒れたが、七番武田 Jr がサード前のあたりがイレギュラーしてショート内野安打となり一死一三塁となった。八番河井ショートゴロエラーで満塁になり、九番三浦死球

押し出しで1点を追加。更に、一番太田の時パスボールで2点を追加し一死三塁となったが、ピッチャーゴロで二死。二番渡辺も凡退した。

四回裏

ライト権に代わり根ヶ山、キャッチャーに渡辺、ファースト三浦に守備を変更したこの回、一番に四球で出塁を許すと二番に送りバントされて一死二塁、三番の強打者を迎えて初球をワイルドピッチランナー三塁とされ多ところでライト前にタイムリーを打たれた。しかし後続を断ちこの回一点に抑えた。

医師会は五回に1点、六回にも2点を取り歯科医師会打線をそれぞれの回三者凡退として、おわってみれば15対7で快勝した。

三師会野球大会 2 回戦 令和元年10月22日(火・祝) レクザムスタジアム

チーム名	1	2	3	4	5	6	計
医師会	0	0	7	5	1	2	15
歯科医師会	0	3	3	1	0	0	7

- 1) 5 太田→妹尾 Jr 2) 3→2 渡辺 3) 6 妹尾→PH→6 井上
 4) 9 権→根ヶ山 5) 1 赤井 6) 7 佐野 7) DH→4 武田 Jr 8) 8 河井
 9) 2→3 三浦 10) 4 武田

VS 薬剤師会、先攻は医師会

一回表

一番サード武田 Jr はライトフライ、二番センター河井はセンターフライ、三番ショート根ヶ山ファーストフライと三者凡退であった。

一回裏

医師会先発投手は70歳の松岡、いつもの安定した緩急織り交ぜた投球で薬剤師会の若い打者をほんろうし、堅いバックに打たせて取る野球をさせてもらえるかがカギでした。



しかし、一番がいきなりサードの送球エラーで無死二塁のピンチ！ その後、二番から三振を奪い落ち着くかに見えた矢先、三番ショートの簡単なサードゴロを再びショートバウンドの悪送球！ 嫌な流れであったが四番をショートフライ、五番をショートゴロに打ち取った。

二回表

この回先頭の四番権が四球で出塁、五番セカンド井上ライト前ヒット、六番ファースト松本センターとショートの間に落ちるヒットと続き無死満塁となった。七番 DH 妹尾（父）ショートゴロエラーで1点を先制すると八番キャッチャー妹尾 Jr が左中

間二塁打し2点を追加した。さらに九番レフト佐野がレフトオーバー三塁打を打ち2点を取った。一番武田 Jr 三振の後、二番河井がレフトオーバーのランニングホームランを打ち、この回7点をもぎ取った。三番根ヶ山がレフト前ヒットで続いたが、四番権、五番井上は凡退した。

二回裏

初回到手に足を引っ張られた松岡であったが、六番ファーストゴロ、七番レフトフライ、八番サードゴロと三者凡退と簡単に終わらせた。

三回表

六番松本ピッチャーフライ、七番三浦四球で一塁へ、しかし八番妹尾 Jr ショートゴロセカンドでフォースアウト、九番佐野もレフトフライとなりこの回無得点であった。

三回裏

この回から、医師会のマウンドには松岡に代わり妹尾（父）、ライト権に代わり井垣が入りました。立ち上がりの三浦は先頭の九番に四球で出塁を許したが、次の一番をサードゴロとしてセカンドフォースアウト、一死一塁とした。これで落ち着くかと思ったが二番に死球、三番にセンター前ヒットと打たれ満塁とした。四番にはまたもや死球で1点返されてなお満塁。このまま崩れるかと思いきや五番をピッチャーゴロ、1-2-3のダブルプレーでピンチをしのいだ。

四回表

7点差で終わればコールドゲームとなるこの回、医師会が一番からの好打順であったが三者凡退となった。

四回裏

この回、医師会の投手は妹尾から抑えの三浦へ交代した。力強い球で相手打線を沈黙させて三人で簡単に終わらせた。

五回表

権に代わって四番に入った井垣がファーストゴロエラーで出塁すると、盗塁を決めて無死二塁とした。五番井上ライト前ヒットで一三塁、六番松本がここでレフトにタイムリーヒットで井垣が帰った。七番三浦ショートフライで一死となったが、八番妹尾 Jr がレフト前ヒットで満塁とした。ここで九番佐野が四球を選びこの回2点目を入れて9-1とした。一、二番が凡退したがこの回を抑えればコールドゲームというところに漕ぎつけた。

五回裏

先頭の九番を四球で出塁を許したが、一番にサードゴロを打たせてセカンドフォースアウト、セカンドの送球がそれてダブルプレーを逃した。二番にも三遊間に打たれたがサード武田 Jr が上手く捌いてセカンドフォースアウト、セカンドの悪送球で二死二塁となった。しかし、四番をセカンドフライに打ち取り、コールドゲームが成立し勝利した。

三師会野球大会 3 回戦 令和元年10月22日(火・祝) レクザムスタジアム

チーム名	1	2	3	4	5	計
医師会	0	7	0	0	2	9
薬剤師会	0	0	1	0	0	1

1) 5 武田 Jr 2) 8 河井 3) 6 → 4 根ヶ山 4) 9 権 → 井垣 5) 4 → 6 井上
6) 3 松本 7) DH → 1 妹尾 → 三浦 8) 2 妹尾 Jr 9) 7 佐野 10) 1 松岡



当日の18：30から、高松ロイヤルパークホテルにおいて、三師会懇親会が開催されました。あくまでも懇親が主目的である三師会野球大会ですが、勝ちへのこだわりは医師会のみならず歯科医師会も薬剤師会も同様です。であるがこそ、さらに楽しく野球を通じた交流が生まれるのだと思います。

薬剤師会会長の開会のご挨拶により懇親会が始まりました。さらに、今年のMIP（最も印象に残った選手賞）の発表が主幹の薬剤師会からありました。今年は、御年70歳にして薬剤師戦に先発2イニングスを0点に抑えた、医師会の松岡先生が受賞されました。次に優勝監督の発声による乾杯となりましたが、MIPトロフィーに付いているリボンの一つに今年7月に54歳で他界された杉田先生の名前を見つけて、彼を思い出して泣いてしまい言葉にならない私を参加されていた皆様が温かく見守って下さり…、声にならない声で何とか乾杯をして、皆様に



ご唱和していただきました。

その後は毎年のような、よく食べ、良く飲む酒宴が徐々に盛り上がっていきました。懇親会では各師会の監督あるいはキャプテンが選手紹介するというお楽しみの時間があります。その中では選手一人ひとりが一言コメントする機会があります（一言で済まない「しゃべりー」もありますが）。各師会の選手は口々に負けた悔しさ、勝った喜びをそれぞれ独特な表現を交え、笑いあり、涙（？）ありで語り、来年こそはと誓います。選手の人柄が垣間見えるこの時間が過ぎると、各師会の選手の心の距離がより一層近づきます。三師会が60年続く理由はもしかしたらこの懇親会があるからかもしれません。来年もまたこの回が続き、医師会の6連覇が叶いますようにと祈りつつ…。

